

放射線科（診断）

I プログラムの名称

慶應義塾大学病院 放射線科（診断）初期臨床研修プログラム

II プログラムの指導者

統括責任者

慶應義塾大学医学部放射線科学教室（診断）

教室主任 陣崎 雅弘 教授

研修医担当主任 鈴木 達也 助教

III 放射線科（診断）の概要・特徴・特色

放射線診断科は、ほとんど全ての診療科の画像診断を担当する中央診療科である。

患者さんの治療方針の決定には正確な診断が不可欠であり、各診療科とのカンファレンスで主治医と一緒に治療方針を議論している。カンファレンスを通してあらゆる診療科とのネットワークを持ち、各科と横断的に関わることで、病院全体の診療の質の向上に大きく貢献している。

また、カテーテルなどを用いた画像ガイド下の治療（IVR）も行っており、侵襲が少ない手技を患者さんに提供している。画像診断も IVR も対象は全身の諸臓器、あらゆる疾患にわたり、当科ではほとんどの領域で専門家が対応できるような体制を構築している。

IV 到達目標

厚生労働省による「臨床研修の到達目標」に準じる。

A. 医師としての基本的価値観

1. 人間性の尊重

検査を受ける患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

2. 自らを高める姿勢

画像検査を通して、医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

臨床、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。画像検査は多科にわたる多くの患者、様々な背景をもつ患者を対象とするため、患者のプライバシーに特に配慮し、守秘義務を果たす。

2. 医学知識と問題対応能力

画像検査や臨床情報から適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断を行う。

3. コミュニケーション能力

適切な言葉使い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族と接する。

4. チーム医療の実践

検査技師、看護師、ナースアシスタントなど画像検査に関わる人々の役割を理解し、

連携を図る。

5. 医療の質と安全の管理

医療事故等の予防と事後の対応を行う。造影検査の適応を学び、造影剤投与時の合併症や副作用について理解し、その対応を学ぶ。

6. 科学的探究

医学および医療における科学的アプローチを理解する。

C. 基本的診療業務

1. 一般外来診療／初期救急対応

画像検査時におけるインシデントや緊急事態を学び、初期対応および応急処置、専門分野との連携ができる。

V 研修方略

研修期間は原則として2か月（8週）以上とする。希望により4週での研修も考慮する。

一般臨床医に必要な放射線医学の基本となる考え方、臨床技術などを学ぶ。画像診断法について、その手技・装置・最低限の診断学や検査の適応、緊急時の対応方法を習得する。

VI 研修評価

オンライン臨床教育評価システム（EPOC2：<https://epoc2.umin.ac.jp/epoc2.html>）にて、評価票ⅠⅡⅢの研修医評価、指導医評価、メディカルスタッフ評価を実施する。2年間の研修修了時には、評価票ⅠⅡⅢの各評価がレベル3に到達するよう指導を行う。